

KAETSU on the MOVE

実学を120年。「経営 経済」のKAETSU



発行：嘉悦大学アドミッションセンター

はじめて本紙を読む方へ

嘉悦大学は日本初の女子商業教育を実践した嘉悦孝によって創立され、女子短期大学を経て、2001年以降は男女共学の4年制大学として新たな道を歩んでいます。これまで120余年に渡り時代に先駆けた実学教育を展開し、日本初の女性公認会計士をはじめとする有為の人材を

多数輩出してきました。そして今、「実学120年の嘉悦で信頼できる職業人になる」をスローガンに、学生へのキャリア支援をはじめ、教育・研究活動におけるさまざまな挑戦を続けています。本紙ではその最前線をレポートします。

KAETSU MBA 嘉悦大学大学院

加藤寛先生の思いを受け継ぎ、開設された嘉悦大学大学院は実学を120年、「経営 経済」のKAETSUとしての伝統に基づいて発展してまいりました。ここに新たにMBAコースを立ち上げ、より実社会で活躍する現役ビジネスマンのレベルアップに益するべく、日本社会発展に貢献してまいります。

加藤寛先生は昭和・平成にかけて、日本の発展に尽くされた経済学者です。国鉄改革でJR設立を、電電公社改革でNTT設立を臨調ブレーンとして主導。「経営の神様」松下幸之助の知恵袋としても多くの提言を行いました。慶應義塾ではSFCを立ち上げ、千葉商科大学学長を経て、嘉悦大学学長を務め、実学と実践を重視する経済学者の集大成として嘉悦大学大学院を設立されました。平成25年(2013年)1月、86歳で永眠。勲一等瑞宝章。



Katou Hiroshi

加藤 寛先生

(ニックネームはカトカン)

理論知と実践知を融合させる 「嘉悦MBA」の魅力

従来からのアカデミズムを追求し、修士修了後には博士後期課程進学も視野に入れた研究プログラムに加え、本年からより広い層に学んでいただける実践プログラムを設置し、MBA 取得を目指すビジネススクールとしての体制も整えました。

嘉悦MBAの特長

- 1 「マネジメント領域」「政策・税務・会計領域」「情報領域」の幅広い3つの領域で多彩な科目群を設置
- 2 講義形式による理論知と実際の企業経営者らによる現場のライブケースを題材としたケースメソッドを取り入れた実践知の修得による現実の問題発見力と解決力を養う嘉悦独自の必修科目
- 3 社会人大学院生が修学しやすいように平日夜間と土曜の昼夜に对面・オンラインのハイブリッド形式での講義形態
- 4 他の私立大学院と比較しても廉価な100万円を切る学費。厚生労働大臣指定講座のため一般教育訓練給付制度による給付金の対象

- 5 徹底した少人数教育の体制のため、講義・研究指導で教員と十分な議論ができ、納得のいく研究指導
- 6 国税庁からの出向教員による直接指導など嘉悦ならではの実践的な研究指導。さらに博報堂やJTB など出身の多くの実務家教員が所属。ケースメソッドと企業経営に関する MBA 教育を提供

理想的な研究・教育環境で皆さんの入学を心よりお待ちしております。

滑川光裕

嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科
研究科長



研究のための施設と環境

西武新宿線
花小金井駅 徒歩10分

キャンパス内は、緑豊かで静かに学べる環境です。学内の無線LAN完備はもちろんのこと、情報メディアセンター(図書館)では、膨大な研究・教育資料から瞬時に求める蔵書やデジタル情報を入手できる情報検索システムを有しており、効率よく学修できる環境となっています。



C棟
C棟3Fは、大学院専用の教室と研究室を備えています



C棟2Fラウンジ
落ち着いた雰囲気のC棟2Fのラウンジ



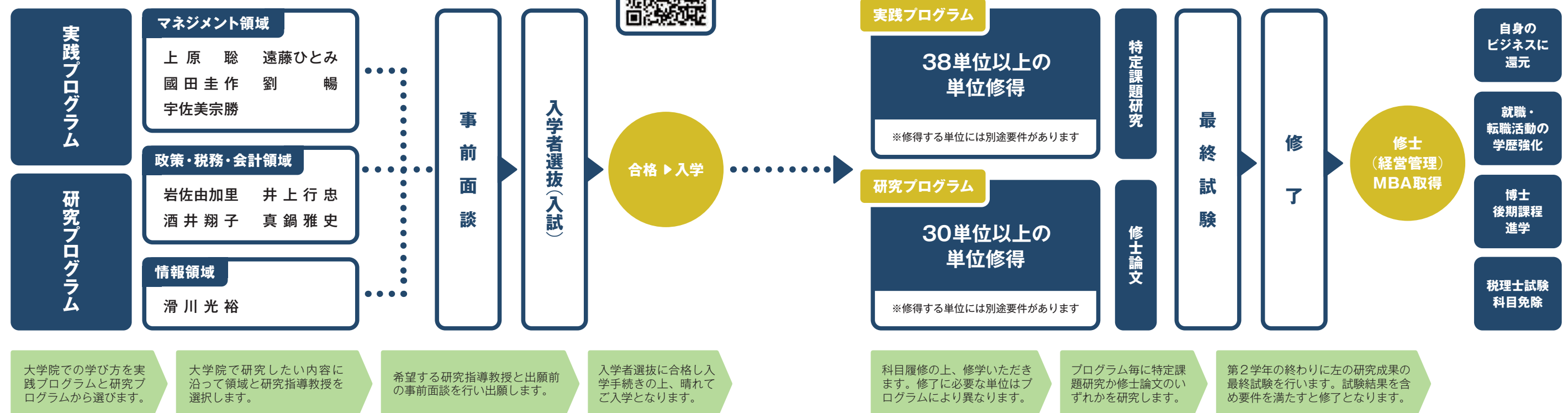
B棟 情報メディアセンター図書館
B棟の情報メディアセンター(図書館)は、授業日・試験日は、休日を除き8:50~19:30(土曜日は10:30~18:00)開館しています



C棟3F院生研究室
共用学習スペース&個人ロッカー、ミーティングコーナー、書架などを備えたC棟3Fの大学院専用研究室

MBA取得までの道

お気軽にご相談ください▶



教員指導科目

マーケティングとは経営そのもの。
研究対象は広く深い。
一緒に有意義な研究を進めよう

上原 聡 教授 商学、マーケティング戦略論

私は日本交通公社での勤務経験も活かして、マーケティングの中でも心理学を中心に研究をしています。その関係でマーケティングサイコロジという分野で研究をする学生が多いのですが、一方で流通小売業のマーケティング、あるいは中小企業のマーケティングといった形で多岐に渡る研究をされているということが大きな特徴となっています。マーケティングの定義はよく議論になりますが、一言で言えばマーケティングとは実は経営そのもの。従って研究の対象内容は非常に大きな広い分野で行うことができます。

好奇心旺盛な探究心溢れる
アンビシャスな学生さんが
志望してくれることを期待！

宇佐美 宗勝 教授 経営戦略論、マーケティング、航空経営論、経営管理論

航空会社や国際機関での勤務経験を活かして、国内外のホスピタリティー産業のオペレーションマネジメントや顧客ロイヤリティの向上、企業戦略を中心に研究をしています。学生には、国内外の幅広い情報に接し、理論やフレームワークをベースに多面的に考察できるような姿勢を身につけてもらいたいと思います。また、事例に基づく定性的分析に加えて、データを用いた定量的分析にも積極的にトライをしてもらいたいと思います。

研究活動を通じて
キャリアデザインを描こう

劉 暢 教授 比較経済論、産業政策論

専攻分野は、比較経営論、比較経済論、産業政策論です。研究指導では、産業政策と企業活動との関係が持続的な産業発展にどのように寄与するかを検証し、産業政策および企業経営の研究分析に必要とされる総合能力を引き上げます。その上、学生も教員も客観的考察力を一層高め、激変する時代と共にさらに成長していくことを目指したいと思います。

フルサポートで論文完成の
お手伝いをさせていただく

國田 圭作 教授 商学、消費者行動、マーケティング

長年、大手広告会社でマーケティングの実務を経験してきましたので、マネジメント領域全般、特に経営とマーケティングの関わりにおいて、効率のよいアドバイスができと思っています。中でもB2C企業については多様な業種・市場を広く見てきましたので、どんな領域であっても多分皆さんの問題意識に合わせた形で適切なアドバイスをさせていただけると思います。せっかくのMBAの学びを、ぜひ論文にまとめあげてキャリアの節目を飾ってください。

自主的に取り組む
意欲ある学生を
心待ちしています

遠藤 ひとみ 教授 経営学

ビジネス創造研究科博士前期課程において、マネジメント領域の経営管理論と研究指導を担当しています。研究指導は、経営学の基礎知識や代表的理論が、複雑化する現代社会の様々な経営的事象にどのように応用されているかを学び、またそれらの限界や新たな可能性の考察を目的とします。また、修士論文のテーマ設定や構成、考察のための理論構築などを行っています。

国税庁から出向している
現職の国税職員です

岩佐 由加里 教授 租税法

専門は租税法で、国税庁での実務経験を活かしながら指導を行います。博士前期課程では、所得税法・法人税法・国際課税の授業を担当しています。修士論文については、税理士試験の税法に属する科目2科目免除のための指導を行います。法人税法や所得税法だけでなく、消費税法や相続税法、国税徴収法の指導にも対応いたします。修士論文の作成は、関係法令や裁判例、学説などに粘り強く向き合い続ける必要がありますが大変ですが、税理士になるための重要なステップです。一緒に議論しながら学んでいきましょう。

興味・関心を大切に

酒井 翔子 教授 法学、租税法

これまで、英国税制を中心に比較研究を行ってきました。最近は格差是正や環境問題など、SDGsに関連したグローバルな社会問題に対して、税がどのような役割・機能を発揮できるのか、また、多国籍企業の租税回避問題を研究しています。論文指導は、2年間で着実に税理士免除論文の質を備えた論文が書き上げられるようにサポートします。税理士は法律を扱う職業です。論文作成を通じて培った論理的思考能力と税法の理解(趣旨・目的知識)を実務にも活かせるように、興味のある税法論点を独自の視点で追究していきましょう。

問題意識があれば
受け入れますが大前提です

真鍋 雅史 教授 経済統計学、政策研究

経済統計学的方法論を使った政策研究をテーマにしています。私自身の最近の研究は、金融市場の非対称情報問題、看護ケアの質の経済評価、航空サービスの消費者選択といったテーマで進めています。院生の研究テーマでは、一つは高齢者が労働した時の社会の変化を世代重複モデルで分析、従業員満足度と顧客満足度の関係性について評価、設備投資の決定要因など多岐に渡ったテーマで研究しています。

松下幸之助生誕130年記念講座

『経営組織論研究(組織行動) アントレプレナーシップ論』

公開プログラム 令和7年4月開講決定！全14回

講師 渡邊祐介(PHP理念経営研究センター代表)

受講料 別途発生いたします

企業家活動の源泉といえるアントレプレナーシップの本質を講義する。各回、名経営者や現在活躍している経営者をケースとし、各々の経営哲学や経営理念の形成、戦略との関連性、イノベーションや重要な経営判断の是非を議論する。また現代組織の運営に求められる種々のアントレプレナーシップの意義やあり方を解説する。

大学院特別講座「KAETSU FORUM(仮称)」

隔月にて花小金井の嘉悦大学構内カエツホールで開催いたします。毎回著名経営者をお招きして、地域で活躍するリーダーたちと直接接し、議論する場を嘉悦大学大学院が提供します。地方創生・地域活性化に生かせる施策・経営手法を学べます。開催内容決定次第順次嘉悦大HPで公開してまいります。

副学長 真田幸光教授

徹底した少人数教育

井上 行忠 財務会計

主に財務会計における修士論文の指導を行います。修士論文のテーマ設定や論文の構成方法、参考文献の表記などの形式面の諸規則、論文の作成に必要な基本的知識について指導を行います。入学の対象者は、一般の方には希望者を対象に、税理士試験一部科目免除(会計学科目)のための論文指導を行います。財務会計の授業におきましては、主に簿記論および財務諸表論を指導しております。

国際会議での講演など
学生の研究実績を
活かす指導

滑川 光裕 教授 情報システム学、システムシミュレーション工学

専門は、最新の情報技術を用いて社会現象自然現象のデータを分析し、その数値的特徴や論理性に基づき、将来予測を行うシステムシミュレーションです。指導内容も、最新の情報技術センサー技術などにより得られた数値的なデータを解析し、社会に役立つ新システム開発を行うことができるよう、基礎レベルからの指導を行っております。海外で活躍したい所属企業において、そのIT活用技術を会社運営に役立てている修了生など習得したICT技術と論理性を社会へ貢献してきています。

松下幸之助

パナソニック(旧松下電器産業)
グループ創業者、PHP研究所創設者

明治27(1894)年和歌山県に生まれる。大正7(1918)年松下電気器具製作所創業。昭和21(1946)年PHP研究所創設。昭和54(1979)年松下政経塾設立。平成元(1989)年に94歳で没。生前は「経営の神様」と慕われパナソニックを世界的企業に育て上げた。同時に思想家・社会活動家として戦後日本の発展に尽した。著書「道をひらく」は566万部を超える大ベストセラー。

公開講座開講

嘉悦大学の経営経済学部の教授陣が専門領域をわかりやすくお教えする市民教養講座を開校いたします。授業カリキュラムが確定次第順次嘉悦大HPで公開してまいります。

カエツホール

大学院で学ぶ喜び、MBAを取得するとは。

実社会で活躍後、大学院でMBAを取得してきた
本学の國田教授からのメッセージです。

國田圭作 教授 (株)博報堂出身

「MBAという名前は聞いたことがあるが詳しく知らない」という人も多いことでしょう。MBA (Master of Business Administration) は、「修士(経営管理)」を意味します。MBAでは、経営に関する幅広く深い知識を養います。論理的思考や課題発見、課題解決などビジネスシーンで役立つ実践力が身につきます。

MBAの学修と学部での学修について、経営というジャンルは変わりませんが、「学びの質」が違います。学びの質とは、問題意識の持ち方、課題解決の手法、意思決定のプロセス、経営判断の基準など、MBAでは学部以上の高度な実践力が求められます。

「MBAの取得は意味がない」と言う人もいます。たしかにMBAを取得しても、国家資格のようにすぐに収入がアップしたり、役職アップが保証されているわけではありません。しかしMBAの2年間は、ビジネス人生において大きな価値を持っています。自らの中に堅牢でぐらつかないビジネスの理論や基盤を築くことができます。

人生100年時代と言われるなか、何十年も前のOS(ビジネスリテラシー)で戦えるわけがありません。厳しい国際競争に勝ち残るためには、常に自分自身をアップデートする必要があります。MBAを取ることで、不確定な時代の変化に対する対応力が上がり、経営の三要素(ヒト・モノ・カネ)に関する汎用的な経営スキルが身につく、物事の本質を見抜く力や決断力・人間力が鍛えられます。大学院での学修を通じて人脈が広がるメリットもあります。さまざまな業界から強い目的意識や学習意欲を持ったプロフェッショナルが集まり、大きな刺激になることは間違いありません。

本学の大学院は、学部と同じく少人数できめ細かいサポートを売りにしており、教員と連絡を密にしながら学ぶことができます。何より私自身、MBAを取ってよかったと感じている一人でもあります。皆さんにもぜひMBAを体験していただければと思います。

大学院修了生&在学生

case study 1

スキルを鍛えていただき感謝！ 社会人も研究しやすい環境

榎澤 祐一

Enosawa Yuichi

博士後期課程修了 マネジメント領域

現在、マーケティング論の教鞭をとりながら、寄付やサービスに関する消費者行動やマーケティングについて研究しています。

高校生の頃から、将来は作詞家になりたいと思うほど音楽に興味があり、大学卒業後、音楽会社(エイベックス)に就職しました。私が社会に出た2000年代は音楽業界に地殻変動が起きていた時期であり、急激にCDの売上が落ち込み、音楽配信のプラットフォームはまだ確立されていませんでした。

新事業として立ち上がった映像部門で管理会計に従事していたのですが、映像関連の知識不足や経験不足を痛感し、一から学び直すと考え、デジタルハリウッド大学院大学の修士課程に社会人入学しました。実務能力を養成する専門職大学院でしたので、先生方の中には同業他社の実務家もおり、平日夜間や休日を使い、映像デジタルのビジネス構造やITを学びました(デジタルコンテンツマネジメント修士)。

27歳で販売促進へ異動になり、店頭の販促プロモーションに取り組みました。音楽業界はアーティストのプロデュースに焦点が当たることが多いですが、そこで気づかされたのはプラットフォームとしての流通がビジネスの成否を分けることでした。当時は目の前の仕事をこなしつつも、自分が思い描く理想の音楽ビジネスを夢みて、趣味で作曲教室に通い、自作CDを制作していました。

31歳のとき、トレーディング・カードゲーム会社の創業者の方から音楽事業を立ち上げるという話を聞き、そのご縁から転職しました。ブシロードで手掛けたのは、アニメやゲームに関わる楽曲のビジネス(制作、ライブ、CD、音楽配信など)です。

30代後半になり、音楽だけでなく、広くビジネスを動かす力を付けたいと考え、もう一度、知的体力を鍛え直すとともに、オリジナルなビジネスの理論を構築したいという気持ちが高まりました。20代の修士課程では、パッケージとしての学問体系を一通り学びましたが、自分の理論を構築するなら博士後期課程がよいということで、知り合いの先生から嘉悦大学の社会人大学院を勧められました。

博士後期課程で一番苦労したのは、学術雑誌への投稿です。当時、私は一般的な研究者の道を歩んでおらず、どこかの学会に属しているわけでもありませんでした。論文実績に乏しいため、博士論文作成の前段階として学術雑誌に一本でも多く査読論文を取り上げられなければなりません。

査読論文の審査では査読者から多数のコメントを頂きましたが、指導教員の先生から、データや事実をもとに推論して説得力のある論文を書いてプレゼンに仕上げるスキルを鍛えていただいたのはとても有難く、嘉悦大学大学院は社会人も研究しやすい環境が整っていると感じます。

case study

2

実学の嘉悦はビジネス畑の 社会人に寄り添ってくれる

窪寺 暁

Kubodera Satoru

博士後期課程在学中

マネジメント領域

私のキャリア人生を振り返ると、自分は仕事欲と同じくらい知識欲がある人間だと自己分析しています。

大学を卒業して大手製薬会社に入り、30歳で社内公募のMBA留学に挑戦しました。MBAといっても学究的な道を目指したわけではなく、経営管理職への登竜門的な位置づけとしての会社派遣であり、幹部候補生として経営管理を学ぶのがミッションでした。現地で出会った学生の多くは、日本人ビジネスマンとは異なり、キャリアアップや将来起業を目指しており、「サトルは、MBAを取るのに同じ会社に戻るのか」と不思議がられました。

帰国後、MBAで学んだ事業戦略論を現場で実践したいと考えてコンサル会社(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)に転職しました。製薬会社の経営企画部門で事業計画の一端に携わっていたものの、若手には意思決定権まではなく、米国で学んだファイナンス・ストラテジーなどを大きな舞台で試してみたいという気持ちが勝り、転職しました。コンサルタントとしては、上場企業の中でも超大企業よりは、業界トップをうかがうような勢いのある企業の事業戦略のお手伝いをして経営者に近いところで仕事をできたことは貴重な体験でした。

私が得意としていたコンサルティングは、国際事業戦略です。コンサル会社の中国支社に出向して、中国やASEANに進出したい日本企業を担当し、現地進出のお手伝いや現地企業とのアライアンスの橋渡

しなどを手がけました。

外資系のヘルスケア企業2社を渡り歩いて47歳になったとき、自分がやってきた国際事業戦略の見識をさらに高めたいと考えて、一橋大学の公共政策大学院で、国際関係の修士を取得しました。その後、古巣のコンサルからお声がかかり、プロジェクトマネジメント・顧客開拓などの仕事に携わったのち、創業ベンチャーの役員として、事業開発やファンド交渉を担当しましたが、50歳をすぎて、長年、関わってきた国際事業戦略について自分の考えを体系づけてまとめたいという気持ちが高まり、嘉悦大学の博士後期課程に入学することに決めました。日本企業の海外進出といっても必ずしもハッピーな話ばかりではなく、中国市場に限れば、撤退を決めた日本企業も数多ありますし、欧米企業のほうが中国市場に深く根を下ろしている現実もあります。なぜ日本の経営が中国では通用しなかったのか、という自分のクエスチョンを理論的に明らかにするような研究を行いたいと考えています。

実学を重んじる嘉悦大学は、私のようなビジネス畑の社会人に寄り添って研究活動を後押ししてくれる環境が整っています。例えば、授業はできるだけ土曜や、夕方以降で受講できるようになっていること。また、指導いただく教授の方々からも、実ビジネスに沿った研究テーマについて多面的にアドバイスをいただいています。博士号を取得したあかつきには後進育成にも関わりたいと考えています。

case study

3

抛り所をひとつ持つだけでも 何よりのメリットに

Abe Takamasa

阿部 孝正

博士前期課程在学中

政策・税務・会計領域(政策)

高校卒業後、一年半の会社勤めをしたのち、宅浪を経て、21歳で大学の機械科に入り、修士課程まで進みました。修士課程修了後は、建設機械メーカーに就職し、油圧ショベルの構造物を開発する部署に配属になりました。開発現場で2~3年が経ち、金属疲労の研究に関心を持ち始めた頃、このままでは自分が考える理想の技術者には近づけないという焦りもあり、仕事の視点をもう一段階上げたいと考えて、会社から通いやすい広島大学の博士後期課程の門を叩きました。どんな材料を使えばよいのか、どれだけ壊れる時間を延ばせるか、壊れる時間をどこまで正確に予測できるかなど、自分の中で沸き起こる新たな疑問や興味に際限なく、研究を続けながら理想の技術者へ向けて成長する実感を感じました。

職業技術者にとっての博士号取得は教員を目指すわけではなく、そのまますぐに実業に活用できるわけでもありません。とはいえ、職業技術者である以上、最終的には商品としてお客様に選んでいただけるものを出し、収益を株主に還元するというのが王道である気がします。その意味で自分の知識欲や好奇心を仕事と同じベクトルへ向かわせることを心がけていました。

40歳で中国工場に赴任することになり、研究開発の責任者になりました。当時は、新商品を投入したにも関わらず、販売が前年比で半分以上に落ち込むなど、これまで開発者一筋で、同僚含め、開発者が商品

性を改善するために、一生懸命に昼夜開発しているにも関わらず、売り上げは商品性とはまったく別の所で決まっているように見えたことに衝撃を覚えました。技術ばかりではダメと感じ、建設機械の売り上げを決めている商品性とは別の要因“見えざる手”についても知りたいたいと思うようになりました。

嘉悦大学の博士前期課程に興味をもったのは、土曜に半分のカリキュラムが組まれるなど社会人が学びやすい環境が整っていることに加えて、入学説明会でも私が抱えているマクロ経済学上の疑問に担当教員の方が丁寧に答えてくださったことが大きく、最後は教職員の人が決め手になりました。オンライン授業で時間のストレスを感じず、合同研究指導会で他教員との交流があるのもうれしいですね。

いままで社会学系科目を学んだことがなく、戸惑いがないといえば嘘になりますが、唯一、良かった点は、経済学が数学を多用するため、理系であることが武器となりました。経済学の数式展開はすんなり理解できるのでなんとかくらくらいついている感じです。

若い方へのアドバイスとしては、技術一辺倒ではダメ。経済、経営など広い視野・目線で考えることが大切で、足りないと思ったときに学ばばよいのです。博士号がすぐに役立つわけではありませんが、自分の専門分野や抛り所を一つ持つだけで意見が言えるようになるのが職業技術者としての何よりのメリットだと思います。

さあ、あなたも 解答してみませんか？

大学院って、どんな入試問題なんでしょうね。

Q

以下のテーマ1～3の中から一つを選んで、
あなたの考えを1,200字以内で解答しなさい。

2025年度 嘉悦大学大学院
博士前期課程
一般・社会人・外国人留学生選抜
1期 入学試験問題

theme 1

「ものづくり大国」といわれた日本の持続的成長に向け、その製造業が抱える問題と、解決のための効果的な手段などを、実態を踏まえて分析し、論述してください。

theme 2

あなたは、ある企業の執行役員・人事本部長であると考えてください。次の人事異動に際し、2名の部長（総務部長、営業部長）が異動することから、後任の部長の選定を行っています。この企業では、部長は部内の課長が昇進することが通例となっています。社長からは、女性活躍の観点から2名の新任部長のうち1名以上は女性となるよう候補者案を作成してほしいとの指示を受けています。なお、総務部長（男性、56歳）は執行役員・財務本部長に昇進、営業部長（男性、58歳）は子会社社長への出向が内定しています。

部長候補となる課長は、総務部では2名、営業部では3名います。候補者は以下の表の通りです。あなたが最も相応しいと考える総務部長、営業部長の候補者を1名ずつ選定し、その選定理由を論述してください。

候補者	性別	年齢	入社年次		現職	職務状況	人柄
総務部	A	男性	52	1997年	財務課長	同期トップとして着実に成果をあげて きている	活発
	B	女性	56	1993年 一般職採用 2003年 総合職転換	女性活躍推進課長	目立つ成果はないものの女性職員から の信頼は非常に高い	丁寧
営業部	C	女性	47	2002年	第1課長(大企業担当)	営業成績が良く3年前に第1課長に 抜擢	明朗
	D	女性	50	2001年 大学院卒採用	第2課長(中小企業担当)	成績は高いものの、パワハラ の指摘があり一度研修を受けている	厳格
	E	男性	52	1998年	第3課長(個人向け担当)	成績や評価は悪くないものの物足りな さはある	温厚

theme 3

2024年6月、持続可能な開発目標（SDGs）のための世界最大の有識者ネットワークである「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」（SDSN）は、世界各国のSDGsの達成度を評価した「Sustainable Development Report」（持続可能な開発報告書）の2024年版を発表しました。

日本のSDGs達成度については167カ国中18位で、過去最低の順位だった2023年（166カ国中21位）から3位上昇したものの、全部で17ある目標のうち5つの目標が「Major challenges（大きな課題が残る）」と最低評価とされました。

「Major challenges」とされたもののうち目標12「Responsible Consumption and Production（つくる責任、つかう責任：持続可能な消費生産形態を確保する）」については、プラスチックごみの輸出量の多さや家電や電子機器などの電子ごみへの対応が課題となっています。

この目標12に関しては、限られた資源やエネルギーを大切にすることが重要となりますが、目標達成に向け、生産者・消費者双方の観点からどのような取組が必要か、あなたの考えを論述してください。

自分なりに書き上げてみませんか。60分以内に1,200字です。

LET'S TRY

嘉悦大学 大学院ビジネス創造研究科

博士前期課程・博士後期課程

〒187-8578 東京都小平市花小金井南町2-8-4 [アドミッションセンター] TEL: 0120-970-800 E-Mail: kikitai@kaetsu.ac.jp <https://www.kaetsu.ac.jp/>